

公益社団法人日本補綴歯科学会
JPS 会員増対策検討ワーキンググループ

会員増計画作成ワークショップ報告書

2025 年 3 月 22 日・23 日



公益社団法人 ほてつ 日本補綴歯科学会
Japan Prosthodontic Society

目的：本会正会員（歯科医師会員）の会員数を増やすために、

- (1) 会員の新規獲得のためのキャンペーン施策,
- (2) 退会会員の再入会促進のための施策, ならびに,
- (3) 退会者, 特に会費未納による自動退会者の減少のための施策を検討し,
令和7年度に各委員会にて実行可能な案を作成すること.

日 時：2025 年 3 月 22 日(土)・23 日(日) 1 泊 2 日

場 所：友愛会館 会議室（〒105-0014 東京都港区芝 2 丁目 20 番 12 号）

宿 泊：Rose stay 東京芝公園（〒105-0014 東京都港区芝 2 丁目 20 番 12 号）

ワーキンググループメンバー

理 事 長	窪木 拓男（岡山大）	*オブザーバー
副理事長	大久保 力廣（鶴見大）	*オブザーバー
常務理事・総務担当	小見山 道（日大松戸）	*オブザーバー
WG 長	上田 貴之（東歯大）	
WG メンバー	秋山 謙太郎（岡山大）	
	熱田 生（九州大）	
	猪越 正直（科学大）	
	金澤 学（科学大）	
	黒嶋 伸一郎（北海道大）	
	新谷 明一（日歯大），	
	隅田 由香（日歯大），	
	水橋 史（日歯大新潟），	
	依田 信裕（東北大）	
幹 事	太田 緑（東歯大）	

○事前課題

各自で考える新規入会者の獲得を妨げる要因，会員の退会の要因を列挙し，提出した．

○ワークショップ当日出席者

オブザーバー 窪木 拓男，大久保 力廣，小見山 道

WG 長 上田 貴之

WG メンバー

グループ A 秋山 謙太郎，猪越 正直，黒嶋 伸一郎，水橋 史

グループ B 熱田 生，金澤 学，新谷 明一，依田 信裕

幹 事 太田 緑

ワークショップ日程表

3月22日（土）1日目

15：30	開場	
16：00 (30分)	将来構想・会員増検討対策 WG 合同セッション 開会の辞・開催趣旨説明：小見山 道 総務担当理事 本会の現状と将来構想について：窪木 拓男 理事長	
16：30 (5分)	ワークショップ説明 ワークショップの説明 上田貴之 WG 長	
16：35 (45分)	グループワーク 1 課題の抽出とグループ化 A グループ課題 「新規会員獲得のための施策」 リーダー：秋山 謙太郎 書 記：猪越 正直 発 表：黒嶋 伸一郎	グループワーク 1 課題の抽出とグループ化 B グループ課題 「再入会者を増やすための施策・自動退会者減少のための施策」 リーダー：金澤 学 書 記：熱田 生 発 表：新谷 明一
17：20 (10分)	休 憩	
17：30 (20分)	全体セッション 各グループからの発表（各5分） 全体討議（10分）	
17：50 (70分)	グループワーク 2 課題に対する対応策の検討 A グループ課題 「新規会員獲得のための施策」 リーダー：水橋 史 書 記：秋山 謙太郎 発 表：猪越 正直	グループワーク 2 課題に対する対応策の検討 B グループ課題 「再入会者を増やすための施策・自動退会者減少のための施策」 リーダー：依田 信裕 書 記：熱田 生 発 表：新谷 明一
19：00	各自、ホテルへチェックイン	
19：20	ホテル前集合。情報交換会会場へ移動（ホテルから徒歩6分）	
19：30 (120分)	将来構想・会員増検討対策 WG 合同セッション 情報交換会（会費制）	

3月23日（日）2日目

7:00	朝食（各自ホテルにて）	
8:50	開場	
9:00 (30分)	全体セッション 各グループからの発表内容の説明（各10分） （発表者は、グループワーク2の発表者） 討論（各10分）	
9:30 (50分)	グループワーク3 令和7年度に各委員会にて実行可能な案の作成 A グループ課題 「新規会員獲得のための施策」 リーダー：秋山 謙太郎 書記：黒嶋 伸一郎 発表：水橋 史	グループワーク3 令和7年度に各委員会にて実行可能な案の作成 「再入会者を増やすための施策・自動退会者減少のための施策」 リーダー：熱田 生 書記：依田 信裕 発表：金澤 学
10:20 (10分)	休憩	
10:30 (60分)	将来構想・会員増検討対策WG 合同セッション ①将来構想WGからの発表 各グループ10分 ②会員増検討対策WGからの発表（発表は、グループワーク3の発表者） 各グループ10分 ③全体討議	
11:30 (30分)	総括：窪木 拓男 理事長 閉会の辞：大久保 力廣 副理事長	
12:00	昼食・散会	

新規会員獲得のための施策

日本補綴歯科学会の会員数は、現状のままでは将来的に微減すると目されている。残念ながら退会する会員も年々一定数存在するが、新規会員をより多く獲得すべく、より魅力のある学会への変革が望まれている。まずは、現状の問題点を洗い出し、それらに対する対応策を立案し、現状での各委員会に対応いただきたいと考える。

問題点① 学会運営

- 日本歯科医学会の分学会として数多くの学会が存在しているものの、歯科医学における補綴歯科の必要性、重要性が明確に提示できていないのではないかと考える。
- 同様に、領域の重なる他の補綴歯科系の学会との差別化が明確に提示できていないのではないかと考える。
- 上記の点について、広報・アピールが不足しているのではないかと考える。

【対応策】

- 補綴歯科がいかに重要であり、かつ、本会が魅力的な学会であることを会員に向けてアピールすることで、新規入会に意欲を高めることが可能と考える。

その具体的な方策として、“日本補綴歯科学会アプリ”の開発と利活用を提案する。

(例：(一社)日本ペインクリニック学会ではすでに有効活用されている)

アプリの内容の具体例は以下の通り：

TikTok, Instagram などのような、短時間で簡便に確認できる学術コンテンツの作成

(例：CAD/CAM 冠接着のポイント、咬合採得のポイントなど)

ガイドラインの確認

症例難易度分類の確認

歯科補綴学専門用語集へのアクセス

学術大会等、参加単位の確認

修練医・認定医・専門医申請の流れと申請書類へのアクセス

学会費納入

【対応委員会】

特命委員会 III (新設)、社会連携委員会、教育問題検討委員会

- 積極的に女性・若手を執行部へ登用して、より多角的な立場から学会運営を行う。

【対応職務】

執行部，理事会，委員長会

問題点② 大学偏重

- 日本補綴歯科学会構成員の多くは大学等に所属する会員であり，学術大会においても基礎研究や学術的なコンテンツが中心的で，開業医・勤務医が求めるような，より実践的なコンテンツが不足しているのではないかと考える．
- 上記のような大学偏重の構成のため，運営の大学偏重・学会の閉鎖性が感じられる可能性がある．
- 内部の構成員に偏りがあるために視野が狭くなり，日本補綴歯科学会のみが重要視され，他学会との連携がうまくできない可能性がある．
- 大学に所属していると学会継続の機会が多くあるが，大学から離れて開業や病院勤務になった場合に，学会継続の魅力や，機会そのものが減少している可能性がある．

【対応策】

- 診療所開業医・勤務医も学会運営に参画してもらう（目標として全体の3割程度）．

【対応委員会】

学術委員会，教育問題検討委員会

【対応策】

- 日本補綴歯科学会に求めるものとして，一般歯科医師へのアンケート調査を実施する．

【対応委員会】

広報委員会

問題点③ 金銭的負担

- 年会費，入会手続きの複雑さが挙げられ，金銭的負担というよりは，毎年の年会費を決済することが手間であること，それにより会費未納となる会員が一定数いることが挙げられる．

【対応策】

- 新規開発したアプリにより即時支払対応可能とする
- 口座振替制度を積極的に周知すること，口座振替制度登録者に得点を付与する

【対応委員会】

特命委員会 III（新設），社会連携委員会，財務委員会

問題点④ 認知度

- 補綴歯科としての認知度の低さ，補綴歯科専門医の国民への認知度の低さが会員登録意欲の低下に

結びついている可能性が考えられる。

【対応策】

- YouTube 等へのオンライン CM の活用，インスタグラム等の積極的な利用
- ほてつくん・プロソちゃんのぬいぐるみ配付・販売

【対応委員会】

広報委員会，社会連携委員会

問題点⑤ 専門医関係

- 専門医・認定医制度の魅力不足
- 専門医・認定医制度のハードルの高さ
- 学会活動の実用性不足
- 補綴歯科専門医のインセンティブがないこと

【対応策】

補綴歯科専門医制度に関しては，日本歯科専門医機構の決定によるところが大きいため，改変は困難であると考えられるものの，学会活動の実用性については，例えば和文誌の扱う内容に臨床トピックを拡充させることによって，臨床医もより親しみやすい構成とすることが考えられる。

【対応委員会】

編集委員会

【対応策】

- 補綴歯科専門医になれば，他学会の参加費・単位が優遇される等の工夫
- 遠隔診療（遠隔での実技指導）の導入による専門医・指導医の難症例指導

【対応委員会】

学会連携委員会，特命委員会 IV（新設），教育問題検討委員会

問題点⑥ その他

- 入会の機会が減少している。

大学の歯科補綴学分野に所属すると日本補綴歯科学会に入会するが，大学に残らない場合は，入会の機会が減少している可能性がある。

【対応策】

- 学生・研修医の時点で入会の機会をつくり，早い段階から「補綴歯科」に興味をもってもらう。

- 修練医は参加費無料（1 期分：3 年間）とし、特に大学所属では無い会員の認定医・専門医増加を目指す。

【対応委員会】

修練医・認定医・専門医制度委員会

- 学生・研修医にメリットがないと入会しない

早い段階から補綴に関わることで、専門医取得へのロードマップを意識しやすくするとともに、経済的負担が極力少なくなるような配慮が必要である。

【対応策】

- 学生・臨床研修歯科医は一定期間年会費無料の準会員とする。準会員登録を行った場合には、学術大会参加費を無料とする。
- 可撤性義歯の学生技能コンペティション（精密印象採得や筋形成など）の追加開催

【対応委員会】

総務，理事会，規定検討委員会，学術委員会

問題点⑦ メリット

- 学会の方向性やメリットの不明確さ
- 会員のメリットが少ない，わかりにくい
- 入会によって得られる効果が少ない
- 会員でしか得られないメリットが少ない

これらの意見は，問題点 1－6 にカテゴライズしにくいもののためまとめてその他としているが，これまでの対応策でカバーできる範疇であると考える。

【対応策】

- 日本補綴歯科学会のアプリ開発と活用
→簡単にアクセスできる，会員のみが得られる情報を載せる。
(学術的内容・治療コンテンツなど)

【対応委員会】

特命委員会 III（新設），社会連携委員会，教育問題検討委員会

再入会者を増やすための施策・自動退会者減少のための施策

- 学術大会の有用性が周知できていない→臨床家も“参加”でき、“学ぶ”ことができる事を啓発する
- 「補綴歯科」、「補綴歯科専門医」に対する国民の認知度が低い
→「補綴歯科」を国民に理解してもらい、さらにその付加価値を浸透させる
- 「補綴歯科」の付加価値について歯科医師へ啓発する

1. 学術大会・連携について

課題：大学に所属していない臨床家（退局者）の会員継続または再入会してもらう

- 臨床に特化した会場を設置し、その場所では臨床セッションのみを実施
【対応委員会】
学術委員会
- 若手や臨床家が発表可能な臨床セッション（卒後5年目までの会員による症例発表中心のセッション）を創設
【対応委員会】
学術委員会
- 歯科大学のない地域で支部会を開催し、スポーツ・レジャーなどのアクティビティ等も実施することで支部会を活性化。各地域の歯科医師会と連携を図ることで、新規会員の獲得と退会者の再入会を促進
【対応委員会】
各支部会
- オンライン参加でも専門医研修単位の取得を可能に（ただしオンライン参加のみの場合は参加費を高く設定）
【対応委員会】
規定委員会、修練医・認定医・専門医制度委員会、財務委員会

2. 会員サービスについて

課題：大学の医局を退局後も会員を継続させる

- 短時間の動画コンテンツのオンデマンド配信（会員は無料）
新しく保険収載された技術や基本手技（大学教育の範囲）、診療ガイドラインの説明等
【対応委員会】

理事会，教育問題検討委員会，広報委員会

- 会費の自動口座振替の推奨

2 年間未納の場合は自動退会（除名）となるが，自動口座振替手続きを行うことで自動退会前の 2 年分の債務返済を猶予する/督促しないで再入会できる制度を策定

【対応委員会】

規定委員会・財務委員会

- 大学の講座退局後の連絡先管理を徹底

自動口座振替の推奨と長期間有効な連絡先（携帯番号等）の管理

【対応委員会】

総務，規定委員会，財務委員会

- 正会員の細分化

【対応委員会】

規定委員会・財務委員会・広報委員会

➤ マスター会員：会員歴 40 年以上は年会費半額

➤ ヤング会員：学生，研修医の年会費・学術大会参加費無料

ただし，入会時点で正会員登録し，自動口座振替手続きを義務化する

➤ 産休中・育休中の会費割引

年間 500 円にして学会誌やメルマガ等の会員サービスは継続，現育休制度などを HP 等で会員に周知

- 市民フォーラム・市民公開講演がオンライン無料公開されていることを会員・国民に広く周知（SNS による宣伝等）

【対応委員会】

総務，理事会，広報委員会，社会連携委員会

3. 専門医制度について

課題：認定医・専門医を取得することの意義・利点を周知する

- 「補綴歯科」の認知度向上

大学病院における専門医研修施設の診療科名に「補綴」を入れることを推奨

- 修練医を廃止し，認定医・専門医・機構専門医取得のロードマップを HP や SNS 等でわかりやすく提示（HP のリンク切れも修正）

【対応委員会】

広報委員会，専門医制度委員会

- 医局員の認定医取得を推奨

大学ごとに1年に1回人数を公表する

【対応委員会】

各大学の講座，修練医・認定医・専門医制度委員会

- 長期間で患者のQOLを維持できる補綴歯科治療（治療計画や補綴設計）の重要性に対する教育の充実，このためのコンテンツ・素材の提供

【対応委員会】

各大学の講座，教育問題検討委員会